

現代の名工

鉄鋼業界の卓越技能者

当社従業員の
上野康秀氏が

「現代の名工」に認定されました



若手に溶接を指導



上野 康秀氏

日鉄住金工材

機器部機器工場副長として工場全体の操業管理・安全管理を行うとともに技能伝承の要として中堅、若手への教育に力を注ぐ。主力商品の電解銅箔製造用電着ドラム製造の重要工程である「焼き嵌め」技術の確立では、自動焼き嵌め装置と治具の開発を行い、高品質な電着ドラムの製造に大きく寄与した。

「焼き嵌め」など技能伝承の要

現代の名工 2人に栄誉

卓越した技能を持つ2007年度の「現代の名工」が厚生労働省から5日に発表され、県内からは2人が選ばれた。6日に都内で表彰式が行われる。

「焼き嵌め」の技術確立

機械器具組立工
上野 康秀さん(50)
(上越市・日鉄住金工材)



後輩社員に溶接技術を指導する上野さん(上越市)

読売新聞

上野さん(日鉄住金工材)を選出

「厚生労働省のききょう表彰式」
「現代の名工」

厚生労働大臣が表彰する「現代の名工」(卓越した技能者)に今年度、上越地域から日鉄住金工材(上越市川原町、石川昌弘社長)

の「現代の名工」(卓越した技能者)に今年度、上越地域から日鉄住金工材(上越市川原町、石川昌弘社長)

は今年度の上野さんを含めて90人になる。県によると、上野さんは化学プラント向けのタンク、純ニッケルなど特殊鋼を使用した産業機器製品の製作、異種材質の接合技術に卓越。電解銅箔製造用電着ドラムの製造、不溶性電極用架台の開発に寄与したという。異種材質のスポット

上越タイムス

その他の機械器具組立工

上野康秀さん(50)＝上越市＝



密着技術確立に貢献

1985年、日鉄住金工材(上越市)に入社以来、技術的にタンクの内外筒を密着させ、製品の品質向上に努めてきた。特にプリント基板に不可欠な銅箔を作る電着ドラムの製造では、熱で膨張する金

技術のこのつたをきき留めて技術や装置の開発に生かしてきた。

「後輩たちの道しるべとなり、ここから第2、第3の現代の名工を輩出したい」と意気込んでいる。

新潟日報

その他の機械器具組立工 上野 康秀氏



新入社員に溶接指導する上野氏

日鉄住金工材

電着ドラム製造に寄与

1985年の入社以来、製品開発や高品質化に30年以上かけて培った卓越した組立技術や、電着ドラム製造で最も重要な工程の一つ「焼き嵌め」の確立・改善を行い、

開発し高品質な電着ドラムの製造に大きく寄与。製作方法立案や治具の考案時には沢山の課題があったが、試行錯誤を繰り返して一つ一つ課題を克服した」と振り返る。現在は機器工場副長として工場全体の操業管理・安全管理を行うとともに技能伝承の要として中堅若手への教育に力を注ぐ。自分自身の技能向上に努め、後輩にとつての「フアロス」(灯台)となり第2、第3の現代の名工を育てたい」と抱負。どんな障害があっても創意工夫を積み重ねて任された仕事をやり抜くことが信条。(50歳)

産業新聞

現代の名工 たゆまぬ努力

県内から2人

卓越した技能を持った各分野の人を厚生労働省が表彰する今年度の「現代の名工」に、県内からは機械器具組立工の上野康秀さん(50)＝上越市＝と、表具師の玉木晴夫さん(68)＝新潟市西区＝が選ばれた。6日に東京で表彰式がある。

機械器具組立工 上野康秀さん(50)



後輩社員を指導する上野康秀さん(左)＝上越市川原町

機器開発 情熱注ぐ

予想通りにいかないこともたくさんあった。タンクの筒を熱する時間や温度管理の研究を重ね、技術として確立させた。困難があっても努力を積み重ねることが信条。「先輩に負けないで、絶対に追い抜く」と思っていた。教えられたことをメモしたノートは30冊以上。自分では不器用でも、どんなことでも、気持でカバーしてきた。最近では指導する若手の成長に喜びを感じることが増えたが、「自分も技術を向上させたい。まだまだ負けてはいられない」と、情熱を持ち続けている。(田中孝子)

朝日新聞